

<会員のひろば>

異団体、異業種交流による協同の発展と地域の民主化

——吹田住民懇活動から——

鈴木 英夫 (大阪府/さつき障害者作業所)

18年前、吹田の障害児・者をもつ親たちの手によって始った「さつき作業所」の運動は、共同作業所づくり運動の中で、吹田市内に2つの法内施設をつくり、共同の運営をめざし、地域の中で活動しています。

1977年に発足した、共同作業所全国連絡会（共作連）にかかわってくる中で、共同の事業として進め、又生活協同組合との提携も進めていくうちに、協同のあり方について特に関心を持ってきました。今いくつかの協同に関する問題意識がありますが、地域の中での協同として、「吹田住民団体（運動）交流懇談会」いわゆる吹田住民懇について述べてみます。

1、吹田住民懇とは

12年前に吹田市が総合計画を作るに当って、素案の住民に対して説明会を開いた時に、個々の民主団体から参加した人たちが、所属している団体に関わっては、問題を意識できても総合計画全般に対して意見を述べるのが出来ずくやしい思いをしたことに端を発します。

吹田市職労の呼びかけに応じて、保育運動・学童保育運動・民商・新婦人・生協・障害者運動・母連・生健会・教組などが集まって、月1回定例会にて、お互いの活動状況、政治的課題などを交流しあいます。定例会では時期に応じて講師を招いて学習会もします。共通する課題として「吹田市の予算の特長」や「まちづくり計画」などです。

定例会以外にも

(イ)毎年9月に行う「よっといで祭り」では例年5万人～7万人が参加する手作りまつりとなって住民の間にも定着してきています。

(ロ)年1回の「吹田市政を考える研究集会」では各組織団体から400人～500人の参加で、吹田のまちづくり、政策について考えあいます。

(ハ)年1回の他地域の見学交流会では、柳川、四

万十川、池子の森、中野区などと毎年各地でのまちづくりに活躍している人たちとの交流をしてきました。

その他、今年からは地方自治連続講座を催してきましたが、吹田33万市民を7つの地域に分けた地域住民懇がこの2・3年活発になってきました。

2、地域に根ざす、地域住民懇と地域のつどい

私の関わっている山田、千里丘住民懇では、山田地域の歴史を学んだり、地域のお寺巡りをしたり、年1回の「地域のつどい」を行事としてきましたが、今は新しく吹田市が建てるコミュニティセンターのあり方を行政の説明を受け市民の使いやすいものにと要求を出しながら改善を計っています。

江坂住民懇では公園の改造に対して子どもたちが使い易いように要求をまとめて出したところ、ほとんどの意見がとりあげられ、公園が市民や子どもたちのものになったとして喜ばれています。

そのほか、地域に応じた問題をそれぞれの団体や個人として意見を出しあい、行政の計画に対して意見をいうという姿勢が市民の中に育ちつつあります。

3、異団体・異業種交流による協同

吹田住民懇・地域住民懇の活動を通じて何が生れてきたのかを考えたとき、それは異団体交流、異業種交流による協同組の発展だと思っています。それぞれの団体の持っている問題や課題を率直に訴えながら、同時に他団体の問題にも関心を持つことによってより広い視野が持てることです。

地域住民懇では、異業種、異団体が共通の問題として持てるテーマとして、「みどり」と水、という環境問題と住民自治・地域の民主化ということがテーマとなっています。地域全体での協同組の輪が広がっていくことを願っています。

雇用シンポジウムのお知らせ

1993年7月に開催した「労働組合問題交流研究集会」の発展として、全国各ブロックを縦断して「雇用不安と労働の未来」シンポジウム（仮称）を労働者協同組合連合会と共催で開催していきます。この取り組みは、研究所の基本研究会と連動し、成果は94年秋の全国協同集会（名古屋を予定）に集約されていきます。全国の会員の皆さんの英知を集め成功させていきましょう。

シンポジウムのねらいは次のものです。

- ①雇用・失業情勢を地域からリアルに把握する。
- ②今次不況の性格を明らかにし、国際的視野を含めて中長期の見通しを検討する。
- ③各地の協同による内発的発展の経験を掘りおこし、ネットワークを発展させる。
- ④労働者協同組合の役割を明確にし、新しい担い手の結集を含めて、労働者協同組合グループの発展に資する。
- ⑤地域づくり・仕事おこしとそれを支える制度・政策を対案としてしめし、労働者協同組合法制要求につなげていく。

当面の取り組みとして次のことを会員の皆さんに呼びかけます。

- ①93年内に全会員にアンケートを送付し、大きく議論を展開していきますので、各地の実態・打開の展望などを含めご意見をお寄せください。
- ②まず94年1月8日に、雇用情勢と協同的打開の方向を縦横に論ずる、新春懇談会を基本研究会として開催します。
- ③労働者協同組合連合会とともに、シンポジウムの企画・政策研究・総括を進めていきます。
- ④専門プロジェクトも編成し企画を進めるとともに、ヨーロッパの動向も含めた資料集の作成にも取り組み、国民的議論を作り出すための材料を提供していきます。
- ⑤94年2月19日、名古屋で開催される第1回シンポジウムを成功させます。続いて3月に東北、4月に九州を予定しています。

研究所の基本研究会のお知らせ

年間共通テーマ

「新しい協同組合——その特質と発展方向」

このテーマを全国縦断雇用シンポジウム「雇用不安と労働の未来（仮）」と結びながら、「地域づくり・仕事おこし」の理論的観点や切りを作り上げる場として、基本研究会を開催していきます。先にお知らせした内容と一部変更があります。

第1回＝総論＝ 1993年11月2日終了

報告：飯島信吾（シーアンドシー）

「地域からおこる新しい協同組合のうねり

—働きがい、人間・生活の総合化を保障する社会を一—

第2回＝福祉＝ 1993年12月11日終了

報告：菅野正純（協同総研専務理事）

「高齢者協同組合と地域福祉づくり

第3回＝新春懇談会雇用シンポジウムにむけて＝

1994年1月8日（土） 午後1時半

「雇用不安と労働の未来」を語る

明治大学神田駿河台校舎、研究棟4階会議室

（JR線御茶ノ水駅下車、徒歩5分）

※当初予定した94年1月の「黄柳野学園の設立と協同の地域づくり」は、学園開校後、夏以降に現地にて開催します。

第4回＝労働＝ 3月5日（土）午後、於：東京

「雇用不安と労働組合の対案戦略」

第5回＝農業＝ 4月2日（土）午後、於：東京

報告：高橋五郎（農村金融研究会）

「農業をめぐる情勢と生産農協の展望」

第6回＝総会研究会＝ 1994年6月25日（土）

「労働の未来への挑戦

—労働者協同組合世界会議からの報告—

於：東京、26日にかけて2日間（予定）

第7回 1994年7月

「協同組合労働の未来を考える

—従業員参加問題—」